

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2863 号

Pathologic method for extracting good prognosis group in triple-negative breast cancer after neoadjuvant chemotherapy

トリプルネガティブ乳癌における術前化学療法後の予後良好群抽出のための病理学的治療効果判定方法についての検討

江口 有紀 (えぐち ゆき)

博士 (医学)

#### 論文審査結果の要旨

本論文は、術前化学療法後の治療効果判定方法として、残存腫瘍の最大断面の面積を測定し評価する方法 (ART) の有効性を乳癌においてはじめて示した論文である。

**【新規性、創造性】** 本論文は、ART 法の有効性を乳癌において示した最初の論文である。乳癌においても、ART 法を用いて予後を層別化することが可能であった。また、術後に non-pCR 症例全例に行われている Capecitabine による術後治療を省略できる可能性がある群があることが示唆された。

**【方法・研究倫理】** 国立がん研究センター東病院にて術前化学療法を受けたトリプルネガティブ乳癌 (TNBC) 147 例の残存腫瘍の最大断面における残存腫瘍面積 (ART) を測定し ROC 曲線を描画し、カットオフ値を決定。ART0、ART-low、ART-high の 3 群に分類し RFS と全生存期間 (OS) を評価した。本研究は、国立がん研究センターで包括的な同意を得たサンプルを使用し、関連するガイドラインや規制を遵守して実施された。国立がん研究センターの倫理審査委員会は、本研究のプロトコルを承認した。(第 2021-021 号)。

**【学術的意義】** 本論文は、ART 法の有効性を乳癌において示した最初の論文である。乳癌においても、ART 法を用いて予後を層別化することが可能であった。また、術後に non-pCR 症例全例に行われている Capecitabine による術後治療を省略できる可能性がある群があることが示唆された。

**【考察・今後の発展】** limitation として単施設の後向き研究であることが上げられ、今後他施設での validation や、前向き試験などを考慮する。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。